

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第 卷七第

行發日一月八年七正大

## 論說

我戰時利得稅ヲ論ズ(二).....	法學博士	小川郷太郎
遊民考(二).....	法學博士	瀧本誠一
相續稅批評ノ重點(三卷).....	法學博士	神戸正雄
さんちかりずむ概論(三).....	法學士	河田嗣郎
植民地統治ノ形式ニ就テ(三).....	法學士	山本美越乃
黃宗羲ノ政治經濟思想(二卷).....	法學士	小島祐馬
露國ニ於ケル新まゝるくす主義(二).....	法學士	米田庄太郎

## 時事問題

支那ノ金本位問題ニ就テ(二).....	法學博士	戸田海市
救濟事業ノ調査ニ就テ.....	法學博士	神戸正雄
救濟調査會ニ就テ.....	法學士	榎田民藏

## 雜錄

飯島學士譯經濟學原論ヲ讀ム.....	文學士	高田保馬
戰費調達問題(三卷).....	法學士	小島昌太郎
赤穂ノ鹽田(二卷).....	法學士	本庄榮治郎
通貨膨脹ト物價騰貴.....	法學博士	神戸正雄

## 植民地統治ノ形式ニ就キテ (二)

山本美越 乃

### (三) 直接統治

茲ニ所謂直接統治トハ母國政府自ラ特別ノ機關ヲ設ケテ直接植民地統治ノ任ニ當リ、一切ノ政務ノ執行ニ關シテ毫モ掣肘ヲ受クルコトナキ統治方法ヲ云フ。直接統治ニ關シテモ亦各植民地ノ發達ノ程度ニ應ジテ其ノ制度常ニ必ズシモ一様ナラズ、今廣ク統治制度ヲ標準トシテ之ヲ觀察スル時ハ、現今各國ノ領有セル植民地ハ左ノ三種ノ就レカ其ノ一ニ屬セシムルコトヲ得ベシ。

(一) 植民地ノ立法權ハ母國ノ主權者ニ專屬シ、植民地住民ヲシテ之ニ參與セシムルコトヲ許サズ、又其ノ行政及司法ニ關シテモ母國政府ノ監督ノ下ニ於ケル官吏自ラ之ニ當ル制度ヲ有スルモノ。(英國ニ於テハ此ノ種類ノ植民地ヲ他ノモノト區別シテ特ニ Crown colonies 『皇領植民地』ト稱ス)。

(二) 植民地ニ代議制度ヲ認メ其ノ住民ニ立法上ニ參與スルノ權ヲ與フルモ、未ダ責任政府ヲ有セシムルニ至ラザルモノ。即チ此ノ種類ノ植民地ニ在リテハ、母國ノ主權者ハ立法上ニ於テハ否認權 (Veto) ヲ有スルニ過ギズト雖ドモ、其ノ行政及司法ハ尙ホ母國政府ノ監督ノ下ニ於ケル官吏ヲシテ之ニ當ラシムルモノナリ。(但シ此ノ種類ノ植民地ハ現今ハ其ノ數甚ダ尠シ)。

(三) 植民地ニ代議制度ヲ認メ其ノ住民ニ立法上ニ參與スルノ權ヲ與フルト共ニ、又責任政府ヲモ之ヲ有セシムルモノ。即チ此ノ種類ノ植民地ニ在リテハ、母國ノ主權者ハ單ニ立法上ノ否認權ヲ有スルニ止マリ、行政上ニ於テモ植民地ニ於テ母國ノ主權ヲ代表スベキ最高機關即チ總督ヲ任免スル以外ニ、植民地政府ノ組織及其ノ官吏ノ任免等ニハ直接關與セズ、而シテ總督ハ代議制度ノ運用ヲ完カラシメンガ爲メニ、内閣員ニ關シテハ植民地議會ノ多數ノ信任ヲ有スル者ノ中ヨリ、又一般官吏ニ關シテハ特別ノ機關ヲ設ケ該機關ノ議ヲ經テ之ヲ任命スルノ形式ヲ探ルヲ以テ、其ノ内政ニ關スル實權ハ殆ンド全ク植民地住民ニ歸屬スト言フモ不可ナキモノ是レナリ。

以上三種ノ植民地中(一)及(二)ハ母國政府ノ監督ノ下ニ於ケル官吏直接統治ノ任ニ當リ、且其ノ實權ヲ掌握スルヲ以テ之ヲ直接統治ノ植民地ト謂ヒ、(三)ハ植民地ニ於ケル自治的機關統治ノ實權ヲ有スルヨリ之ヲ自治統治ノ植民地ト稱ス。

植民地ニ完全ナル自治ヲ認メ其ノ住民ヲシテ立法上ニ參與セシムルト共ニ、又責任政府ヲモ之ヲ有セシムルノ制度ハ英國ニ於テ發達シ、最近米國ノ比律賓ニ此ノ制度ヲ認ムルニ至ル迄ハ(一九一六年八月二十九日裁可比律賓自治法參照)<sup>(1)</sup>主要ナル地帯ニ於ケル英國ノ植民地ニ特有ノ一制度タリシナリ、英國以外ノ他國ノ植民地ハ假令住民ニ立法上ニ參與スルノ權ヲ與フル所ニ在リテモ、其ノ内政ハ母國政府ノ監督ノ下ニ於ケル官吏直接之ニ當ルガ故ニ、孰レモ前掲(一)(二)ノ部類ニ屬シ所謂直接統治ノ植民地タルニ過ギズ、(註)此ノ如ク英國以外ノ他國ノ植民地ニ自治統治ノ發

(1) Elliott, C. B. The Philippines (To the End of the Commission Government), pp. 512-523. Indianapolis, 1917.

達ヲ見ルニ至ラザル所以ハ、主トシテ其ノ自然的事情換言セバ植民地ノ位置・氣候・風土等ノ諸種ノ關係ヨリ、母國又ハ母國ト文化ノ程度ヲ一ニセル國民ノ移住比較的少キノミナラズ、一般住民ノ進歩モ亦自治統治ヲ許スニ足ルベキ程度ニ達セザルヲ以テ、現今ニ至ル迄ハ斯カル制度ヲ移入セントスルモ事實上不可能ナルニ因ル。

(註) 佛國ニ於テハ從來主要ナル植民地ニ對シテハ、其ノ住民ナシテ母國ノ國會ニ代表者ヲ選出セシムルコトニ依リテ立法上ニ參與スルノ權ヲ與ヘ、又比較的重要ナラザル植民地ニ在リテモ選舉ニ依ル參政機關(Council)ヲ設クルノ制度ヲ認メタリト雖ドモ、然リモ責任政府ハ尙ホ之ヲ有セシムルニ至ラザリキ、獨逸・和蘭等ノ植民地ニ於テモ此ノ點ニ關シテハ又同一ナリトス。(1)

直接統治ノ植民地ニ在リテハ通常統治上ノ權力ト責任トハ總督ニ歸屬シ、總督ハ一方ニ於テハ母國ノ主權者ヲ代表シテ植民地統治ノ任ニ當ルト共ニ、他方ニ於テハ其ノ政務ノ執行ニ關シテハ自ラ主權者ニ對シテ責任ヲ負フモノタリ、故ニ特別ノ制限ノ存セザル限リハ總督ハ自由ニ統治ノ方針ヲ決定シ且之ヲ實行スルノ權能ヲ有スト雖ドモ、其ノ實際上ノ權限ニ至リテハ各國必ズシモ同一ナラズ。

英國ノ直接統治ノ植民地ニ於ケル總督ノ權限ハ、(一)母國ノ主權者ヲ代表シテ植民地ノ政務ヲ統轄シ、(二)植民地ニ立法上ニ參與スベキ機關ヲ設クル所ニ在リテハ自ラ議長トナリテ議案ヲ準備シ又其ノ決議事項ニ對シテハ採否ヲ決スルノ權ヲ有シ、(三)斯カル機關ヲ設ケザル所ニ在リテハ總督ノ命令ハ法律ニ代ルベキ效力ヲ有シ、(四)特別ノ委任ニ據ル場合ノ他ハ總督ハ陸海軍ノ司令權ハ之

(1) Reinsch, P. S. Colonial Government, pp. 170-171.

ヲ有セザルモ必要ニ應ジテ其ノ出動ヲ要求スルノ權ヲ有シ、(五)植民地ノ歲出入ニ關スル政務ヲ管掌シ、(六)高級ノ官吏ヲ除キ一般植民地官吏ノ任免黜陟ヲ裁斷シ、(七)植民地ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル犯罪者ニ對シテ赦免權ヲ有スル等ハ其ノ主ナルモノニシテ、殆ンド植民地ノ統治ニ關スル一切ノ權力ヲ掌握セルモノト言フモ不可ナシ。<sup>(1)</sup>

佛國ノ植民地ニ於ケル總督ノ權限ハ、(一)母國ノ主權者ヲ代表シテ植民地ノ政務ヲ統轄シ、(二)植民地法令及母國ノ法規ニシテ植民地内ニ適用セラルベキモノヲ公布施行シ、(三)植民地ノ安寧秩序ヲ維持センガ爲メニ警察權ヲ行使シ、(四)原則トシテハ司令官ノ職務ニ干涉スルコトヲ得ズト雖ドモ必要アル場合ニハ植民地軍隊ヲ使用スルノ權ヲ有シ。(五)行政評議會 (Conseil de gouvernement) 及公民會議 (Conseil general) ノ議ヲ經テ植民地ノ歲出入ニ關スル政務ヲ執行シ、(六)司法上ノ事項ニ付キテハ總督ハ不干渉主義ヲ採ルモ其ノ判決ハ之ヲ強制スルノ權ヲ有シ、(七)部下ノ官吏ヲ任免シ若クハ其ノ任免ニ關シテ母國政府ニ上申シ、(八)母國政府ノ認可ヲ得テ植民地住民ニ或種ノ刑罰ヲ課スルノ權ヲ有シ、(九)植民地ニ依リテハ總督ハ外交事務ニモ關與シ隣國政府ト各種ノ協商ヲ爲スノ權ヲ與ヘラルルガ如キハ<sup>(註)</sup> 其ノ主ナルモノタリ。<sup>(2)</sup>

(註) Martinique, Guadeloupe, Réunion 等ノ總督ハ外交事務ニ關與シ隣國政府ト協商ヲ爲スノ權ヲ有ス

獨逸ノ植民地ニ於テハ總督ハ、(一)皇帝及帝國宰相ノ委任ヲ受ケテ植民地統治ノ任ニ當リ、(二)其ノ委任ノ範圍内ニ於テ植民地ノ土民ニ對シテ法律ニ代ルベキ命令ヲ發スルノ權ヲ有シ、(三)植民地ニ居住セル白人ニ對シテモ亦重要ナル一般行政法上ノ命令ヲ發スルコトヲ得、(四)廣大ナル植民地

(1) The Colonial Office List (1916), p. 693 ff.

(2) Girault, A. Principes de Colonisation et de Législation coloniale, 1907, t. I, p. 417. et suiv.

ニ在リテハ其ノ區域ヲ限リテ自己ノ委任セラレタル命令權ノ一部ヲ他ノ官吏ニ委任スルノ權ヲ有シ、(五)植民地ノ行政組織及土民ニ對スル裁判權ノ規定ヲ設クルノ權ヲ與ヘラレ、(六)守備隊ノ訓練及其ノ管理ハ司令官ノ任務ニ屬スト雖ドモ最高ノ軍事上ノ權力ハ總督之ヲ有シ、(七)行政評議會(Governmentsrat)ノ議ヲ經テ豫算ヲ編成シ、(八)植民地ノ安寧秩序ヲ維持センガ爲メニ刑罰ノ制裁ヲ附スル命令ヲ發スルノ權等ヲ有ス。

我が國ノ植民地ハ前掲ノ種別ニ從ヘバ悉ク直接統治ノ植民地ニ屬スルモ樺太ハ殆ンド内地ト同一ニ看做サレ特ニ總督ヲ置カズシテ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承クル長官ヲシテ法令ノ執行及政務ノ管理ニ當ラシムルモ、爾餘ノ植民地即チ朝鮮及臺灣ニハ總督ヲ置キ、準植民地タル關東洲ニハ都督ヲ置キテ諸般ノ政務ヲ統理セシム。樺太長官ノ權限ハ府縣若クバ道長官ノ權限ト著シキ差異ナク、唯前者ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承クルモ、後者ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承クルト其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リテ發スル廳令ニハ、二月以下ノ懲役・禁錮若クバ拘留又ハ七拾圓以下ノ罰金若クバ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得ル等ハ、權限上ノ差異トシテ注意スベキ點ナリトス。<sup>(1)</sup>然ルニ總督及都督ハ現行官制ニ據レバ陸海軍大將又ハ中將中ヨリ親任セラレ、(朝鮮總督ハ陸海軍大將中ヨリ、臺灣總督ハ陸海軍大將又ハ中將中ヨリ、關東都督ハ陸軍大將又ハ中將中ヨリ任命セラレ)、(朝鮮總督ハ天皇ニ直隸シテ諸般ノ政務ヲ統轄スルモ、臺灣總督及關東都督ハ内閣總理大臣ノ監督ノ下ニ諸般ノ政務ヲ統理シ、(二)委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ(關東都督ハ部下ノ軍隊ヲ統率ス)、(三)其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リテ命令ヲ發シ(註)之ニ一年以下ノ懲役・

(1) Gareis, K. Deutsches Kolonialrecht, S. 9 fg.  
Hoffmann, H. E. v. Verwaltungs- und Gerichtsverfassung der deutschen Schutzgebiete, S. 15 fg.  
Hoffmann, Einführung in das deutsche Kolonialrecht, S. 45 fg.  
(2) 明治四十年勅令第三十三號樺太廳官制第九條以下、大正二年勅令第一百五十一號地方官制第四條以下對照



ルニ過ギズ。然ルニ佛國ノ制度ハ之ト異ナリ中央集權ノ主義ヲ植民地ノ政務ニ至ル迄適用シ、從テ佛國ノ植民地總督ハ恰モ母國政府ノ一代理事務官タルニ過ギザルガ如キ觀アリ、總督ノ地位ニシテ既ニ此ノ如クナルヲ以テ其ノ部下モ亦斷エズ總督ノ指揮ヲ承ケ、唯上級官廳ノ命令ニ依リテ行動スルニ過ギズ、更ニ又從來ノ總督ハ一定ノ植民地ニ永年勤績スルコト稀ニシテ多クハ數年ニシテ他ニ轉ズルガ故ニ、當該植民地ノ實況ニ通ズルノ機會ヲ有スルコト少キヲ以テ、自ラ統治ノ方針ヲ定メ獨立ノ意見ヲ立ツルガ如キ能力ヲ缺クリ、是レ近世ノ二大植民國ニ於ケル植民地統治ノ實績ニ著シキ差榮ヲ生ゼシムルニ至レル一原因ケリトス、然ルニ近時ニ及ビ佛國モ亦斯カル缺點ニ注意シ來レルモノノ如ク、例ヘバ其ノ植民地ニ評議會ヲ設置ヲ見ルニ至リタルガ如キハ以テ之ヲ證スルニ足ル。(和蘭ノ制度ハ英國ニ類シ西班牙ノ制度ハ佛國ニ似タリ)。

直接統治ノ植民地ニ於テハ總督ノ補佐機關トシテ其ノ下ニ行政評議會 (Executive council; Conseil d'administration ou Conseil du gouvernement; Gouvernementrat) ヲ置キ以テ植民地ノ重要ナル政務ヲ審議セシムルヲ通常トス、然レドモ行政評議會ノ組織ニ關シテハ各植民地ノ事情ニ應ジテ大差アリ、或ハ單ニ植民地政廳ノ高級官吏ノ協議會ニ過ギザルガ如キ性質ヲ有シ、其ノ目的ハ總督ヲシテ植民地ノ政務ノ實際ニ通ゼシメントスルニ在ルモノアリ (例ヘバ英國ノ皇領植民地ニ於テ組織セララルル行政評議會ノ多ク及嘗テ我が臺灣ニ於テ設置セラレタル臺灣總督府評議會ノ如キハ之ニ屬ス)、或ハ總督ヨリモ比較的安固ナル地位ヲ有セル人々ニ依リテ組織セラレ、植民地ノ統治上ニ一大勢力ヲ有スルモノアリ (例ヘバ蘭領印度ノ評議會制度ノ如キハ之ニ屬ス)、更ニ又他ノ場合ニハ行政評議會以外ニ立法評議會若クバ公民會議 (Legislative council; Conseil général) ナルモノ存ジ、其ノ目的トスル所ハ總督ニ依リテ提出セラレタル法案ヲ審議決定スルニ在ルモ、時トシテハ行政府ニ對スル立法府ノ如キ關係ニ立チ、自ラ發案權ヲ有スルノミナラズ爲政者ニ對シ

テ民意ノ代表ニ努ムルモノモ亦ナキニ非ズ。

英國ノ直接統治ノ植民地ニ於ケル行政評議會ノ組織ハ地方ニ依リテ異ナレリト雖ドモ、通常ハ植民地政廳ノ高級官吏中堅トナリ、之ニ非官吏議員即チ民間ノ有力者ヲ加ヘテ組織スルモ其ノ數ハ各地一様ナラズ、而シテ是等ノ議員ハ總督又ハ君主ニ依リテ任命セラル、行政評議會ハ本來ノ性質ヨリ論ズル時ハ總督ノ諮問機關ニ過ギザルガ故ニ、總督ハ必ズシモ其ノ意見ニ拘束セラルルノ要ナシ、若シ其ノ意見ニシテ一般公共ノ福利ニ反スト思惟スル時ハ總督ハ固ヨリ之ヲ採用セズシテ可ナリ、然レドモ植民地統治ノ普通ノ狀態ノ下ニ在リテハ總督ハ評議會ノ意見ヲ尊重スルヲ常トス、蓋シ行政評議會ハ植民地政廳ノ各部ノ長官及當該植民地ニ於ケル代表的ノ人物ニ依リテ組織セラルルガ故ニ、其ノ意見ハ統治上參考ニ資スベキモノ頗ル多キヲ以テナリ、殊ニ總督ノ交代スルガ如キ場合ニハ植民地ノ統治方針ニ關シテ行政評議會ノ助言ニ依ツベキモノ甚ダ大ナリトス。

(註) 地方ニ依リテハ行政評議會ハ官吏議員ノミニ依リテ組織セラレ非官吏議員ヲ有セザルモノアルモ多クハ一名乃至數名ノ非官吏議員ヲ其ノ中ニ加フ。

佛國ノ植民地ニ於ケル行政評議會モ亦當該植民地ノ高級官吏及民間ノ有力者ニ依リテ組織セラレ、總督ノ諮問ニ應ジテ植民地ノ政務ヲ補佐スルモ、必要アル場合ニハ更ニ二名ノ裁判官ヲ加ヘテ行政裁判所ヲ構成ス、官吏議員ハ各部ノ長官之ニ當リ非官吏議員ハ名望アル公民中ヨリ半ハ總督ニ依リ半ハ大統領ニ依リテ任命セラレ其ノ數ハ通常二名乃至三名トス、任期ハ二年乃至三年ニ

シテ故障アル場合ノ爲メニ別ニ補缺議員ノ制ヲ設ク、行政評議會ハ總督ノ諮問事項ニ對シテ意見ヲ開陳スルニ止マリ之ガ採否ハ總督ノ自由タルモ、多數ノ植民地ニ於テハ總督之ヲ採用セザル時ハ其ノ旨ヲ母國政府ニ報告スベキコトヲ定ム、佛國ノ植民地ニ於ケル行政評議會ハ又植民地ノ會計ヲ檢査スルノ權ヲモ之ヲ有ス。

(註) 佛國ノ植民地ニ於ケル行政評議會ハ地方ニ依リテ其ノ名稱ヲ異ニス、即チ地方ニ依リテハ *Conseil de gouvernement*、*Conseil de protectorat*、*Conseil privé*、*Conseil supérieur* 等ノ名ヲ以テ呼バルルモ其ノ實質ハ要スルニ官吏及非官吏議員ニ依リテ組織セラレタル總督ノ諮問機關タルニ過ギズ。

獨逸ノ植民地ニ於テモ官吏議員及非官吏議員ニ依リテ組織セラレタル行政評議會ノ制度存シ、官吏議員ハ植民地政廳ノ高級官吏中ヨリ、又非官吏議員ハ當該植民地ノ白人居住者中ヨリ少クトモ一箇年ノ任期ヲ以テ總督之ヲ命ズ、議員數及其ノ任期ハ各場合ニ應ジテ同ジカラズト雖ドモ、行政評議會ニハ少クトモ三名以上ノ非官吏議員アルヲ要シ、且通常ハ官吏議員ノ數ハ非官吏議員ノ數ヲ超ユルヲ得ザルヲ本則トス、行政評議會ハ豫算案及總督ノ布告案ニ付キテ審議スルノ權ヲ有スルガ故ニ、總督ハ是等ノ諸案ヲ母國政府ニ提出スルニ先ダチ豫メ行政評議會ヲシテ之ヲ審議セシムベク、若シ其ノ手續ヲ爲スコト能ハザル事情アル時ハ其ノ旨ヲ母國政府ニ報告スルヲ要ス爾餘ノ政務ニ關スル諮問ハ總督ノ自由トス。

(註) 獨逸ノ植民地中膠州灣ニ於ケル行政評議會ハ比較的完全セルモノトシテ夙ニ其ノ名ヲ知ラレタリ、即チ該評議會ハ各部ノ長官及四名ノ公民代表者ニ依リテ組織セラレ、内一名ハ總督自ラ之ヲ任命シ、一名ハ商業登記ヲ了シタル支那商會以外ノ商會中ヨリ五選セシメ、一名ハ土地臺帳ニ登錄セル地主ニシテ一箇年銀五十弗以上ノ地租ヲ納ムル者ノ中ヨリ選出セシメ、

他ノ一名ハ商業會議所會頭中ヨリ之ニ列セシメタリ、但、其ノ性質ハ前掲英、佛等ノ行政評議會ト同シク純然タル諮問機關タルニ過ギズ。<sup>(1)</sup>

然ルニ蘭領印度ニ於ケル行政評議會ハ全ク特別ノ組織ヲ有シ、議員ハ凡テ國王ノ任命ニ係リ(五名ノ議員中一名ヲ副議長トス)、植民地ノ諸般ノ政務ニ付キテ總督ニ助言ヲ與フルノ權ヲ有ス、總督ノ發スル命令ハ行政評議會ノ審議ヲ經ルヲ要スルモ、之ガ爲メニ總督ハ自己ノ責任ヲ以テ命令ヲ發スルノ權ヲ妨ゲラルルコトナシ、又行政評議會ノ發案ニ對シテ總督同意ヲ表スルコト能ハザル時ハ、其ノ理由ヲ母國政府ニ報告セバ足ル、總督ト行政評議會トノ間ニ意見ノ一致ヲ必要トスル場合ニ互ニ其ノ主張ヲ持シテ下ラザル時ハ國王之ヲ裁決ス、此ノ如ク蘭領印度ノ行政評議會ハ總督ヨリ獨立セル地位ヲ有スルモ、其意見ノ探否ハ全ク總督ノ自由ニ委ネラルルヲ以テ、諮問機關タル性質ニ於テハ毫モ異ナルコトナシ。

我が國ニ於テハ嘗テ臺灣ニ於テ行政評議會ノ制度ヲ設ケ、總督ガ其ノ管轄區域内ニ法律ノ效力ヲ有スル命令ヲ發スル場合ニハ、評議會ノ議決ヲ經ルコトヲ要スル旨ヲ定メタルモ(明治二十九年法律第六十三號第一條及第二條)、其ノ後該法律ヲ改正セル明治三十九年法律第三十一號ニ於テハ此ノ條項ヲ削除シタルヲ以テ、評議會ノ制度モ亦自ラ廢絶スルニ至レリ、蓋シ當時ノ評議會ハ前掲先進植民地ノ評議會トハ其ノ性質ヲ異ニシ、單ニ官吏議員ノミニ依リテ組織セラレタルヨリ、重大ナル事項ニ關シテ其ノ議決ヲ經ルコトヲ要件トスルモ、這ハ畢竟一ノ形式ニ過ギズシテ殆ンド無意義タリシヲ以テナリ、然レドモ總督ニシテ萬能ニ非ザル限リハ植民地統治ノ如キ重大

(1) Mohr, F. W. Handbuch für das Schutzgebiet Kiautschou, S. 14 fg. 拙著『支那ニ於ケル獨立ノ經營』三〇乃至三一頁

(2) 持地六三郎氏『臺灣植民政策』五七頁

問題ノ決定ニハ之ガ補佐機關ヲ必要トスベキハ論ヲ俟タズ、殊ニ總督ノ交迭頻繁ニ行ハルルガ如キ場合ニ於テハ然リトス、既ニ統治上總督ノ補佐機關ヲ必要トスル以上ハ之ヲシテ最モ有效ナラシムル様其ノ組織ニ考慮ヲ加フベキハ當然ニシテ此ノ主旨ヨリセバ植民地住民ノ進歩ノ程度ニ應ジ、官吏議員以外ニ母國ノ移住者及土着ノ住民中ヨリ非官吏議員ヲ命ジテ當該植民地ノ施政上ニ參與セシメ少クトモ總督ノ權力ノ濫用ニ對シテ反省ヲ促スニ足ルベキ有力ナル機關ヲ組織セシムルヲ適當トス。

朝鮮ニ於テハ其ノ實績ノ如何ハ姑ク之ヲ別トシ、名義上ニ於テハ先進植民國ノ評議會ニ類セル總督ノ諮問機關存ス、即チ朝鮮總督府中樞院ナルモノハ之ニシテ、該院ハ議長(朝鮮總督府政務總監此ノ任ニ當ル)書記官及通譯官(朝鮮總督府高等官中ヨリ兼任)ヲ除ク外ハ悉ク朝鮮人ニシテ、議員(副議長一人・顧問十五人・贊議二十人・副贊議二十五人)ハ總督ノ奏請ニ依リ内閣之ヲ命ジ、總督ニ隸屬シテ其ノ諮問ニ應ジ若クハ舊慣及制度ニ關スル事項ノ調査ヲ爲スノ職務ヲ有ス、然レドモ總督ノ諮問事項ニ付キテハ特ニ之ヲ明記セザルガ故ニ、其ノ範圍ハ全ク總督ノ自由意志ニ依リテ決定セラルルモノト解スルノ他ナク、從テ比較的重大ナル事項ト雖ドモ總督之ヲ欲セザル時ハ諮問セズシテ可ナルコトトナリ、結局其ノ名ヲ存スルモ實ヲ有セザル一機關タルニ終ルベキ點ニ於テハ、前掲臺灣評議會ノ制度ト大差ナシト稱スルモ不可ナシ。既ニ諮問機關ノ必要ヲ認ムル以上ハ總督ノ諮問事項ハ豫メ之ヲ規定スベキハ勿論、朝鮮ノ如キ氣候・風土其ノ他諸種ノ自然的事實ノ母國人ノ移住ニ適セル地方ニ在リテハ、將來母國人ノ移住ノ増加及鮮人ノ知識ノ進歩

(1) 明治四十三年勅令第三百五十五號『朝鮮總督府中樞院官制』參照

ニ伴ヒ、母子兩國人中ヨリ非官吏議員ヲ命ジ、之ニ各部ノ長官即チ官吏議員ヲ加ヘテ名實共ニ備ハレル總督ノ諮問機關ヲ組織セシムルヲ必要トス。

以上説述セル行政評議會以外ニ英・佛等ニ於テハ直接統治ノ植民地ニシテ更ニ立法上ニ參與スルノ權ヲ有スルモノアリ、殊ニ英國ニ於テハ從來此ノ種ノ制度廣ク行ハレタリト雖ドモ、直接統治ノ植民地ニ對シテ立法上ニ參與スルノ權ヲ與フルコトハ、理論上ニ於テモ亦實際上ニ於テモ頗ル疑義ヲ挾ミ得ベキ餘地アリ、蓋シ之ヲ理論上ヨリセバ直接統治ノ植民地ハ未ダ責任政府ヲ有スルニ至ラザルモノニシテ、即チ植民地ノ實況未ダ自治ヲ許シ得ベキ程度ニ達セザルモノタリ、果シテ然リトセバ未ダ自治ヲ許シ得ベカラザル地方ニ對シテ立法權ヲ與フルガ如キハ、其ノ名ヲ美ニシテ却テ其ノ實ヲ奪フモノト謂フベク、假令植民地ノ住民ハ如何ニ立法上ニ參與スルノ權ヲ有スルモ、實際統治ノ任ニ當ルヘキ植民地政府ニシテ之ニ對シテ全然責任ヲ有セザル地位ニ在ル時ハ、立法權ノ行使モ結局有名無實ニ終ラザルヲ得ザルヲ以テナリ、是レ英國ニ於テスラ代議制度ヲ有スルモ責任政府ヲ有セザル植民地ハ現今ハ僅カニ熱帶ノ一部ニ限ラレ、温帶地方ニ於ケル重要ナル植民地ニ在リテハ立法權ヲ與フルト共ニ又責任政府ヲモ之ヲ有セシムルニ至リシ所以ナリ。

加之、更ニ之ヲ實際上ヨリ考察スルモ、直接統治ノ植民地ニ立法上ニ參與スルノ權ヲ與ヘント欲セバ、或ハ母國ノ議會ニ代議員ヲ選出セシムルノ方法ニ依ルカ、然ラズンバ植民地自體ニ立法機關ヲ設クルノ方法ニ依ラザルベカラズ。然ルニ植民地ヨリ母國ノ議會ニ代議員ヲ選出セシムルノ方法ハ、植民地議員ハ通常母國內ニ選舉區ヲ有スル議員トハ利害關係ヲ一ニセザルガ故ニ、彼

(1) Reinsch, C. G., p. 168.

等ハ往々母國內ニ於ケル諸種ノ問題ノ爲メニ利用セララルコトアルモ、直接自己ノ選出セラレタル植民地ノ利益ヲ増進セシメ得ル場合甚ダ少シ、是レ蓋シ母國議員ハ概シテ植民地ノ實況ニ關スル知識及經驗ニ乏シキノミナラズ、又植民地議員ノ如クニ痛切ニ其ノ利害關係ヲ感ゼザルガ故ニ、植民地ニ關スル錯綜セル問題ハ多クハ之ヲ政府當局ノ意見ニ一任セントシ、特別ノ關係若クハ事權ノ存セザル限リハ植民地議員ノ意見ノ行ハルコト稀ナルベキヲ以テナリ。次ニ又植民地自體ニ立法機關ヲ設クル方法ニ付キテ考フルモ、斯カル制度ハ往々直接利害關係ヲ感ズルコト小ナル少數人ノ爲メニ、利害關係ヲ感ズルコト大ナル多數人ヲ壓スルノ具ニ供セラルル場合多シ、何トナレバ代議制度ノ運用ハ文化的國民ニシテ初メテ其ノ目的ヲ達シ得ベシト雖ドモ、未ダ自治統治ヲ許シ得ベキ程度ニ達セザル植民地ニ於テ斯カル人ヲ求メント欲セバ勢ヒ植民地ノ土民ヲ除外セザルベカラズ、果シテ然リトセバ土民ノ數ニシテ少數ナル場合ニ在リテハ尙ホ忍スベシト雖ドモ、然ラザル場合ニハ代議制度ハ多數ノ住民ニ利益ヲ與フルヨリハ、却テ少數人ニ依リテ彼等ニ壓迫ヲ加フルノ結果ヲ生ズルニ至ルノ危險アルヲ以テナリ。(註)

(註) "They (the representatives of the French colonists) have never given proof of the ability of viewing the colonial situation apart from the narrow interests of their class. On the contrary, the manner in which the Algerian councils have used their political influence for the exclusive and selfish purpose of benefiting the French colonists at the expense of the natives, has done much to perpetuate the hatred between the races and to bring the French Government into disrepute." (Reinsch, Colonial Government, p. 205.)

凡ソ植民地ガ未ダ母國ト同一ノ文化ノ程度ニ達セザルニ拘ラズ、直チニ母國ノ制度ヲ移シテ茲

ニ代議制ヲ施行セントスルガ如キハ、明カニ文野ノ程度ヲ異ニセル人民ヲ同一標準ノ下ニ律セントスルモノニシテ、其ノ根本ニ於テ既ニ謬レリト言ハザルベカラズ、母國又ハ母國ト文化ノ程度ヲ一ニセル國ノ移住者ハ本國ニ於ケルト殆ンド同一ノ權利ヲ植民地ニ於テモ享有センコトヲ冀フベシト雖ドモ、他方ニ於テハ文化ノ程度ノ遙ニ劣レル多數ノ土民ノ植民地内ニ居住セルコトニ注意セザルベカラズ、此ク混合住民ノ存スル場合ニハ母國政府ノ植民地ニ對スル統治方針ノ如何ニ依リ各國其ノ施設ヲ異ニスベキハ勿論ナリト雖ドモ、苟クモ土民ガ一ノ社會的勢力ヲ形造リツツアル所ニ於テハ、急進的ニ文明國民間ニ行ハルル制度ヲ移シテ之ヲ實行セントスルガ如キハ誤リニシテ、寧ロ適當ノ方法ニ依リ徐々ニ彼等ヲ文明的ノ制度ニ接近セシムル模倣化指導スルノ方策ヲ講ズルヲ以テ急務トス、若シ然ラズシテ文野ノ程度ニ深ク注意スルコトナク、急激ニ母國ノ制度ヲ移植セントスルガ如キコトアラバ、終ニ自殺的ノ結果ニ陥ラザルヲ得ザルニ至ルベシ。

要之、母國又ハ母國ト文化ノ程度ヲ一ニセル國民ノ移住未ダ多カラザルカ、若クバ母國政府ノ方針ニシテ結局自治統治ヲ許スヲ欲セザルカ、或又少クトモ未ダ之ヲ許シ得ベキ程度ニ達セザル直接統治ノ植民地ニ對シテ立法上ニ參與スルノ權ヲ與フルモ、其ノ目的ヲ達セシムルコトハ頗ル難シトス。<sup>(1)</sup>

(註) 英國ニ於テハ直接統治ノ植民地ニシテ立法權ヲ與ヘラレタル地方ニ對シテハ君主ハ立法權ヲ行使スル能ハザルコトトナリ居レリ。此ノ主義ハ Campbell vs. Hallノ事件ニ於テまんすふのーらシ卿 (Lord Mansfield) ニ依リテ決定セラレタル所ノモノナリ、該事件ニ於ケル問題ノ要點ハ君主ガ西印度ノぐれなだ (Grenada) 植民地ニ民會ヲ設ケルコトヲ許シ、人

(1) Lewis, G. C. An Essay on the Government of Dependencies, p. 307.

民ノ代表者ノ協賛ヲ經テ法令ヲ制定スルノ權ヲ總督ニ與ヘタル後ニ於テモ尙ホ親ラ立法權ヲ行使スルコトヲ得ルヤ否ヤト云フニ在リシナリ、而シテ此ノ問題ニ對スル決定ハ、(一)植民地ガ征服又ハ割讓ニ因リテ獲得セラレタル場合ニハ君主ハ新カル地方ニ對シテハ立法ノ全權ヲ有ス、(二)然レトモ君主ノ有スル立法權ハ帝國議會ノ立法權ノ下位ニ在リ、(三)又君主ノ植民地ニ對スル立法權ノ行使ハ英國法ノ根本主義ニ牴觸スルコトヲ得ザルノミナラズ、(四)降服又ハ割讓條約等ニモ違反スルコトヲ得ズ、(五)但シ君主ガ一度征服又ハ割讓ニ因リテ獲得シタル植民地ニ代議制度ニ依ル立法機關ヲ設クルノ權ヲ與ヘタル時ハ爾後該地方ニ對シテハ自ら立法權ヲ行使スルヲ得ズ、(六)植民地ガ占領ニ因リテ獲得セラレタル場合ニハ代議制度ニ依リ立法上ニ參與セシムルコトヲ要ス、ト云フニ在リ、要スルニ此ノ決定ニ從ハ直接統治ノ植民地ニ對シテモ帝國議會ノ立法上ニ於ケル優越權ハ依然トシテ認メラルルモ、一度許與シタル代議制度ハ君主ト雖ドモ之ヲ蹂躪スルコトヲ得ズト云フニ歸著ス、此ノ決定ニ依リ議會ノ君主及植民地立法機關ノ各權能ハ明カニ確定セラレ、移住植民地ニ於テハ必ズ代議制度ニ依ル立法機關ヲ設クルコトトシ、征服又ハ割讓植民地ニ於テハ自ら立法權ヲ行フモ或又植民地立法機關ヲシテ之ヲ行ハシムルモ君主ノ自由ナリト雖ドモ、一度立法權ヲ許與シタル以上ハ任意ニ其ノ權能ヲ奪フコトヲ得ズ、唯代議制度ヲ許スニ當リ特ニ君主ガ植民地ノ立法權ヲ留保シタル場合ノ他ハ、直接ノ立法權ハ代議制度ノ成立ト共ニ消滅スルモノトセリ。

直接統治ノ制度ハ一方ヨリ之ヲ觀察スル時ハ保護統治若クハ特許統治ノ制度ヨリ自治統治ノ制度ニ進ムベキ一階段ト看做スラ得ベシト雖ドモ、又他方ヨリ觀察セバ直接統治ノ植民地ニ於ケル總督ハ既ニ述ベタルガ如ク母國ノ主權者ヲ代表シテ植民地統治ノ全權ヲ掌握シ、特別ノ制限ノ存セザル限りハ自己ノ任意ニ統治ノ方針ヲ決定シ且之ヲ實行シ得ベキ絶大ノ權力ヲ有スルガ故ニ、若シ總督ニシテ不偏不黨ノ精神ニ基キ廣ク官民ノ意見ヲ參酌シテ統治ノ大任ヲ完フセントスルノ決心ダニ存セバ、最も公平ニ植民地住民ノ利益ヲ保護シ得ル地位ニ在ルノミナラズ、假令利害相反セル住民ノ間ニ處シテモ亦能ク之ヲ調和セシメ得ベク、加フルニ其ノ有スル軍事上ノ權力ハ植

(1) Cowpers Reports, vol. I. (Reinsch, C. G., pp. 183-184.)

民地ノ秩序ノ維持及防衛ヲ全カラシメ、其ノ他諸般ノ政務ニ付キテ敏速有效ニ機宜ノ處置ヲ執リ必要ナル施設ヲ爲シ得ベキガ故ニ、總督其ノ人ヲ得バ當ニ植民地ノ統治ニ關スル中間的ノ一制度トシテノミナラズ永久的ノ制度トシテモ亦是認セラルベキ長所ヲ有スルコト、恰モ賢明ナル專制政治ノ愚劣ナル民主政治ニ優ルト同一ナルモノアリト雖ドモ、他方ニ於テハ又是等ノ長所ハ總テ此ノ制度ノ短所ヲ藏スル所ニシテ、即チ總督ノ權力ノ過大ナルコトハ特トシテハ其ノ權力濫用ノ弊ニ陥リ、爲メニ統治上ノ重大ナル禍根ヲ遺スノ原因トナルコト稀ナリトセズ、加之、此ノ制度ノ下ニ在リテハ母國ハ植民地ノ財政狀態ニ關シテ其ノ責ニ任ゼザルベカラザルガ故ニ、往々國庫ノ負擔ヲ増加セシメ母國ノ議會ニ於ケル物議ノ種子ヲ播クコト多ク、又植民地自體ニトリテモ此ノ制度ハ屢々固有ノ習慣・制度等ヲ無視シテ有害無益ノ干渉ヲ試ムルノ結果土民ノ反感ヲ誘發セシムルノ危險少カラズ、固ヨリ植民地ガ財政上ノ自給獨立ヲ爲シ能ハザル限リハ、政治上及社會上ニ於テモ亦母國ノ干渉ヲ脱スルコト能ハザルハ當然ナリト雖ドモ、是等ノ原因ニ基ク母子兩國間ノ感情上ノ不和ハ延テ統治上ニ累ヲ及ボスコト多シ、故ニ一時的タルト將又永久的タルトヲ問ハズ、直接統治ノ制度ノ實行ニ當リテハ總督ノ人選ハ最モ重大ナル根本問題ニシテ、其ノ治績ノ如何ハ一ニ係リテ總督ノ人物如何ニ存スト言フモ不可ナシ、是レ先進植民國ニ於テモ直接統治ノ植民地ニ對シテハ特ニ總督ノ人選問題ニ最モ慎重ナル考慮ヲ費ヤス所以ナリトス。